

(夕刊)

2015年(平成27年)2月28日(土曜日)

☆芸能

8

地元能楽界に活力を

若手後継者が「若獅子の会」



久田勘吉郎(左)に蜘蛛ノ精の稽古をつける
師匠で父親の勘鷗(右)＝名古屋市長東区で

来月14日 名古屋で初公演

名古屋を中心に関東、関西の若い能楽後継者が演じる「若獅子の会」が、三月十四日午後一時から名古屋城正門前の名古屋能楽堂で初公演を開く。

企画したのはシテ方観世

流で名古屋在住の久田勘

鷗。「観世流のシテ方四人

が来月末で能楽協会名古屋

支部を脱退するなど、元氣

がないようにみえる地元能

楽界に活力をもたらした

い。年に一度、公演ができ

れば」と話す。能楽界で若

手の会は全国初という。

出演は勘鷗の息子の勘吉

郎(左)、獅子方の河村裕一

郎(右)、山村友子(左)、ワキ方の橋本数(右)、和泉流狂言方の野村信朗(右)、井上蒼大(右)ら地元勢に関西、関東勢を加えた若手ら二十二名。勘吉郎は「不安で緊張するが、将来、一結にやっけていく仲間たちで、こういう経験ができる喜びの方が大きい」と話す。

演目は仕舞「敦盛」「屋島」「松虫」などと能「土蜘蛛」。土蜘蛛は鬼退治の源頼光伝説などを基に生まれ、蜘蛛ノ精が休から糸を繰り出す派手な演出がある作品。蜘蛛ノ精を演じる勘吉郎は「クモと思わせる動きを頑張りたい」と話す。

新しい試みとして、より舞台が楽しめるように字幕スーパールをつける。4500円、3500円。名古屋能楽振興協会事務局☎電052(734)6192
公演に先立ち三月一日午後一時から一部の演者、関係者が名古屋・大須商店街を練り歩きPRする。